

# エコ素材の和紙糸使い

## パイロットショップが好調

### 糸燃後備

備後燃糸（広島県福山市）は、ファッションプロデューサーの塩谷栄一氏（京都市、テキスタイル塩谷代表）と提携し、和紙糸を用いたバッグ、ショール、テールクロスなどに商品化、「B∞n L IGH T（ブーンライト）」のブランド名で百貨店や専門店などのルートで販売を始めた。

今月12日までの3週間限定で、京都市中京区のゼスト御池地下商店街に出店し、好成績を収めた。「厳しい市況で不安だったが、卸や小売店などからの引き合いもあり、今後の展開に展望が開けた。買いやすい価格帯の

商品は消費者にも受けが良く、予想以上の反響を得た」と塩谷氏。備後燃糸は、燃糸技術を応用し、テープ状にスリットした和紙を燃糸にする「水燃り製法」を開発、特許を取得するとともに、この和紙糸および

これを使用して制作した「和紙デニム」生地を、国内のアパレルメーカーに販売してきた。

同社の和紙素材は、風

合いの良さや軽量さ、吸水性、吸汗性、乾燥性などの機能性の高さに優れるだけでなく、生分解性が高く「エコ素材」とし



ても脚光を浴びている。大量生産は利かないものの、希少価値やオリジナリティが人気を集め、これまで卸や小売店、ネット、通販ルートでの販売に注力してきた。

かねてからエコ期間中安定した売り上げを記録

素材に注目していた塩谷氏は2年前、備後燃糸と提携、同社の「B∞n L IGH T」や、和紙帆布生地（100%和紙の生地）に1つ1つ手描きを施した「光」の2つの製品化に尽力するとともに、企画・デザイン・販売開拓にも協力、見本市への出展や百貨店、卸での催事展開など新規の市場開拓を進めてきていた。「昨年からのスタートだが、反応は良くなってきた。今回は、ゼスト御池からのオファーがあり、クリスマスやお正月の書き入れ時に重なったこともあり、パイロットショップでは1日平均5万―十数万円以上と販売効率も高かった。常設店舗への依頼もあり、前向きに検討していきたい」（塩谷氏）としている。